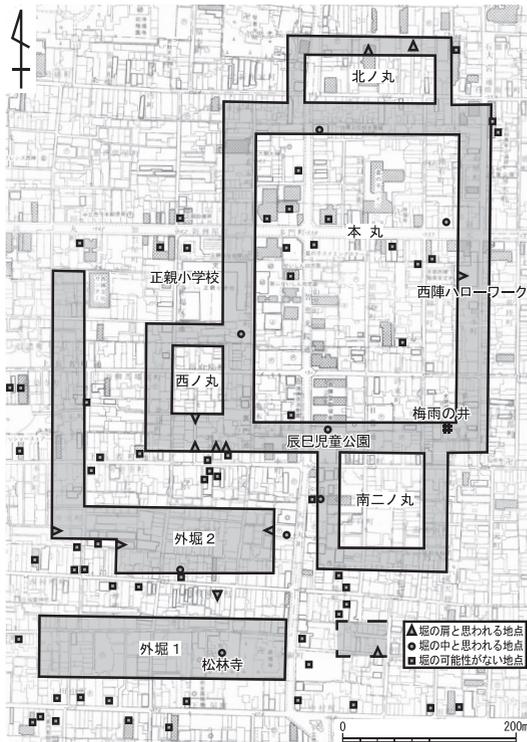


# 天下人の政庁

聚楽第は、豊臣秀吉が上京のはずれに築いた城郭<sup>じょうかく</sup>です。天正16(1588)年の春、後陽成天皇の聚楽第行幸<sup>じゅうらくだい</sup>が行われましたが、この行幸は、先頭が聚楽第に到着した時に、最後尾はまだ御所を出発していなかったほどの壮大なものでした。この時の様子は、近年、尼崎市と上越市で発見された屏風からも窺い知ることができます。行幸の2日目、諸大名は天皇の前で秀吉の命に背かないことを誓う起請文を提出しました。これによって、諸大名や家臣が朝廷の官制に編成され、その頂点に関白秀吉が立つ豊臣政権が成立しました。聚楽第は、秀吉が名実ともに天下人となったこの重要な儀式のために用意された舞台でした。聚楽第は関白の政庁であったので、天正19年に甥の豊臣秀次に関白職とともに譲られました。そして、文禄4(1595)年に関白秀次が謀反の疑いで切腹させられると秀吉の命で破却されてしまいます。

平成3年に大宮通中立売下ル和水町で行われた発掘調査では、深さ8.4m、幅約40mと推定される本丸東堀が発見されました。破却に際して堀を埋め戻した土からは、本丸で使用されていた大量の瓦が出土しました。こ



聚楽第跡復原図

のうち、軒丸瓦・軒平瓦・  
鬼板瓦・<sup>のし</sup>熨斗瓦などの軒先  
と棟を飾る瓦のほとんどは  
金箔瓦<sup>きんぱく</sup>でした。これらの瓦  
は使用時期の特定できる基  
準資料として国の重要文化  
財に指定されています。



聚楽第跡の堀

徹底した破却によって地  
上からほとんど姿を消して

幻の城とも言われていた聚楽第でしたが、この発見をきっかけに復  
原研究が大きく進展し、現在では、聚楽第の堀の位置を推定するこ  
とが可能になりました。

聚楽第の堀の推定位置を地図上に描くと、本丸東堀は平安京の大  
宮大路、本丸北堀は平安京の一条大路の位置にあたります。本丸の  
北東隅が平安京大内裏の北東隅とほぼ一致しているのです。北ノ丸  
は秀次の時代に付け加えられた郭<sup>くわ</sup>の可能性が高いので、秀吉の時代  
の聚楽第は、平安京大内裏の北東隅にピッタリと位置を合わせるよう  
に築かれたと言えます。

小牧・長久手の戦いで徳川家康に敗れた秀吉は、武力による天下  
統一戦略から天皇や朝廷の権  
威を利用する戦略に変更を余  
儀なくされてきました。関白  
政権の確立を象徴する儀式の  
舞台となる聚楽第を築く場所  
として、平安京大内裏の故地  
を選んだことは偶然ではない  
でしょう。



聚楽第跡から出土した金箔瓦

(森島康雄)